

# 美空 ~MISORA~ 第176号

発行日:2024年4月2日  
発行者:NPO法人 電線のない街づくり支援ネットワーク  
理事長 高田 昇

## 目次 INDEX

- ・活動報告 合同理事会・東京理事会 …… 1
- ・大阪本部主催、第4回全国技術委員会 OSAKA 結果報告 …… 2
- ・2/15 東京活動委員会 海外事例報告の学生レポート …… 6
- ・インターン生企画 無電柱化住宅地 アンケート調査 2024 の報告 …… 9

特定非営利活動法人  
電線のない街づくり支援ネットワーク  
THE NETWORK FOR NON POLE COMMUNITY

### 【活動報告】

2024年3月13日(水) 18:00~18:40

### 合同理事会

WEB: Cisco Webex

参加者: 10名

#### ■議事内容■

#### 1. 高田理事長より

早いもので「無電柱化推進法」が出来て、8年余りが過ぎました。来年度の社員総会(推進法施行)10周年を前にすることになります。また「景観計画」も各地で策定が進んでいます。しかしながら、その目的である無電柱化の実績をみると、成果と同時にまだまだ未熟なところがあります。6月の社員総会を前に改めて「アクションプラン」実現への実績と課題を、解明・共有したいものです。特に速く、安く、と言う点では会員の皆さんの努力が見られるものの、自治体との連携強化がウイークポイントとの印象がぬぐえません。その克服に向けての「アクション」についても、議論を進めたいものです。

#### 2. 事務局報告

3/5 国交省、民間 SWG

3/8 国交省都市局オンラインセミナー

※事例紹介で昨年住宅見学会を行った浦和美園が紹介。

3/13 国交省、無電柱化推進技術検討会

3/13 東京理事会、合同理事会(WEBのみ)

3/14 那須塩原温泉(栃木県)無電柱化勉強会 井上事務局長が講演

3/22 大阪本部第4回全国技術委員会 OSAKA 15:00~16:30 新大阪

\*\*\* 今後の予定 \*\*\*

4/18 東京理事会・合同理事会・東京活動委員会 住林会議室・M-5

5/17 大阪本部第5回全国技術委員会 OSAKA 15:00~16:30 大阪市立生涯学習センター第8研修室

5/23 東京理事会・合同理事会(WEBのみ)

5/29 静岡県道路利用者会議総会記念講演 井上事務局長

6/13 無電柱化を推進する市区町村長の会 総会

6/24 合同理事会・NPO 社員総会・総会セミナー 大阪市立総合生涯学習センター5階 第1研修室

6/27 東京理事会・東京活動委員会 住林会議室・M-6  
7/24~26 無電柱化推進展

3. 民間 SWG(3/5)無電柱化推進技術検討会(3/13)からの情報

【無電柱化推進技術検討会・3/13(水)】屋井委員長から民間 SWG の提案に対して、提案だけでなく、検証結果・実例を報告するようにと指示があった。検証結果・実例を次の部会までにまとめる。

#### 4. 6/24(月)開催、NPO 社員総会・総会セミナーの日程

場所: 大阪市立総合生涯学習センター5階第1研修室

#### ◆現時点でのスケジュール(案)

13:00~14:00 準備

14:00~14:30 合同理事会

14:30~15:00 総会準備・受付

15:00~16:00 NPO 社員総会

16:00~16:30 各支部方針発表

16:30~17:00 準備・受付

17:00~18:30 総会セミナー

※19:00~ 交流会

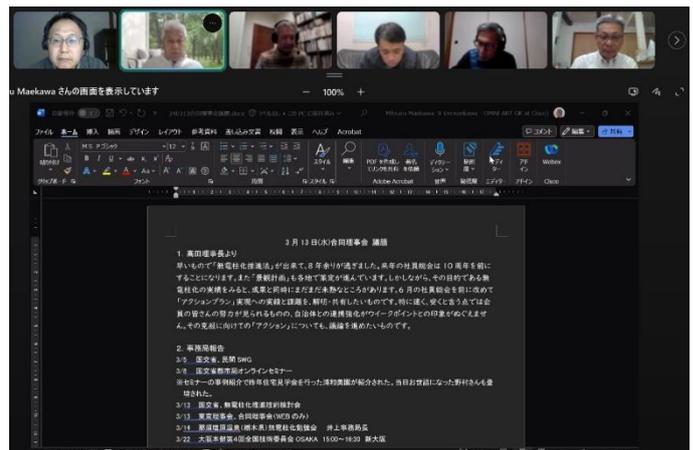
#### 5. 無電柱化推進展、協賛展示について

※3月末~4月上旬にかけて案内をしていく。

#### 6. 各支部方針について

#### 7. その他、各支部・理事からの報告

#### 8. 次回の予定(合同理事会)



2024年3月13日(水)17:30~18:00

## 東京理事会

場所: WEB (Cisco Webex)

参加者: 10名

### ■議事内容■

#### 1. 伊津支部長より

東京支部の年度方針について

活動予定は、昨年の流れを踏襲。

本日は、無電柱化の日イベントを中心に検討。

#### 2. 無電柱化の日イベントについて

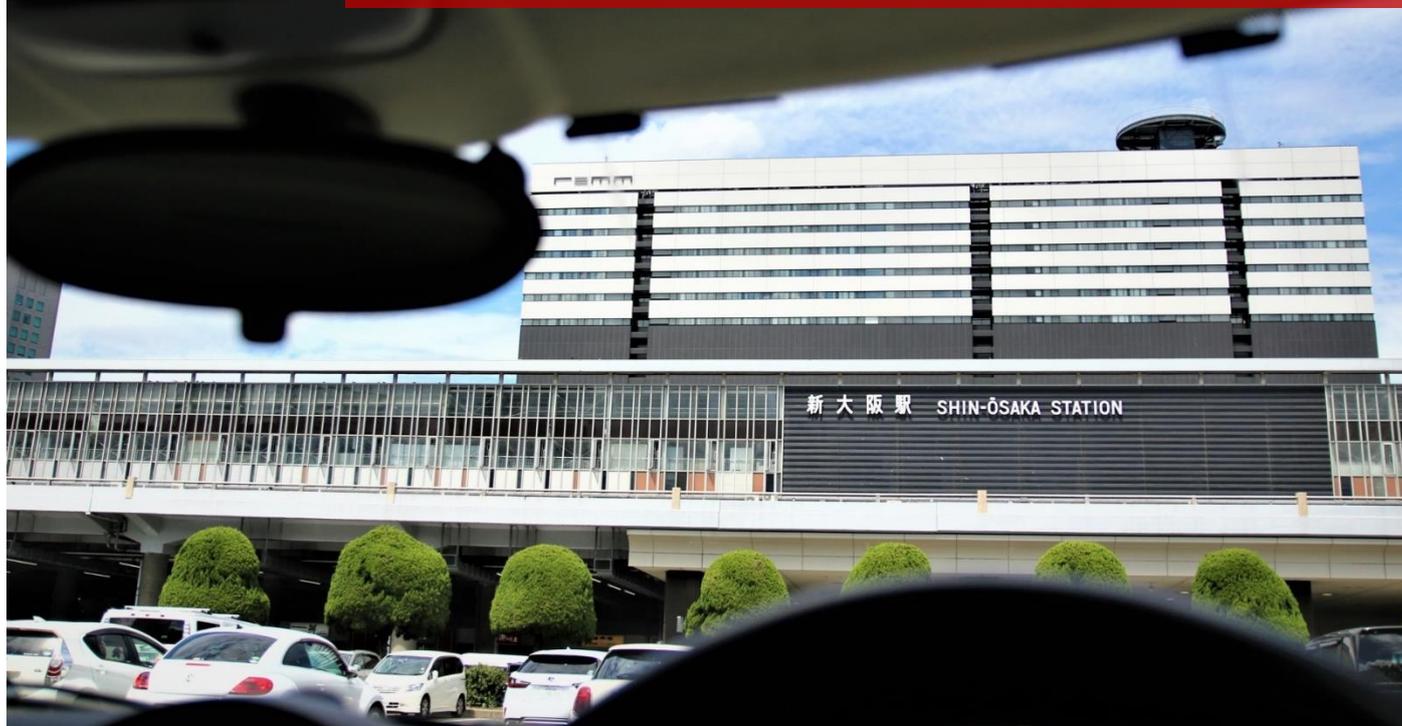
- ・11月10日の休日にするのか、その前後の平日にするか。それによってイベントの対象が変わってくる。
- ・国交省や他の協賛イベントと連携して行うことは可能か。
- ・無電柱化を推進する市区町村長の会と連携して行うことは可能か。

#### 3. 次回の予定(東京理事会)

4/18(木)17:00~17:30 住林会議室 M-5

17:30~合同理事会、18:00~東京活動委員会あり

## 大阪本部主催、第4回全国技術委員会 OSAKA 結果報告



2024年3月22日(金)15:00~16:50

会場: 新大阪ビル西館 新大阪セミナーオフィス 06、07

参加者: 会場・14名、WEB・21名

### ◆スケジュール◆

1. 荒関本部長より(オンライン) 15:00~15:05(5分)
2. 3/13 国交省無電柱化推進技術検討会の解説  
(井上事務局長) 15:05~15:25(20分)
3. 耐震に対する現行管路規格の疑問点(佐伯理事)  
15:25~15:40(15分)
4. 繊維さや管について(野原理事) 15:40~16:00(20分)
5. 繊維さや管の海外事例紹介  
(ミリケン・ジャパン岩撫様) 16:00~16:10(10分)
6. 質疑応答 16:10~16:20(10分)
7. 事務局報告 16:20~16:30(10分)

### 3/13 国交省無電柱化推進技術検討会の解説

(井上事務局長)

※無電柱化推進技術検討会は非公開なので、大阪で行われた内容を要約してお伝えします。

次頁の組織図にあります各WGからの令和5年度の実績報告と令和6年度の目標が発表されました。

低コストWGでは、各SWGの実績報告と次年度目標が発表されました。

## 1. 低コストWG (電力SWG)

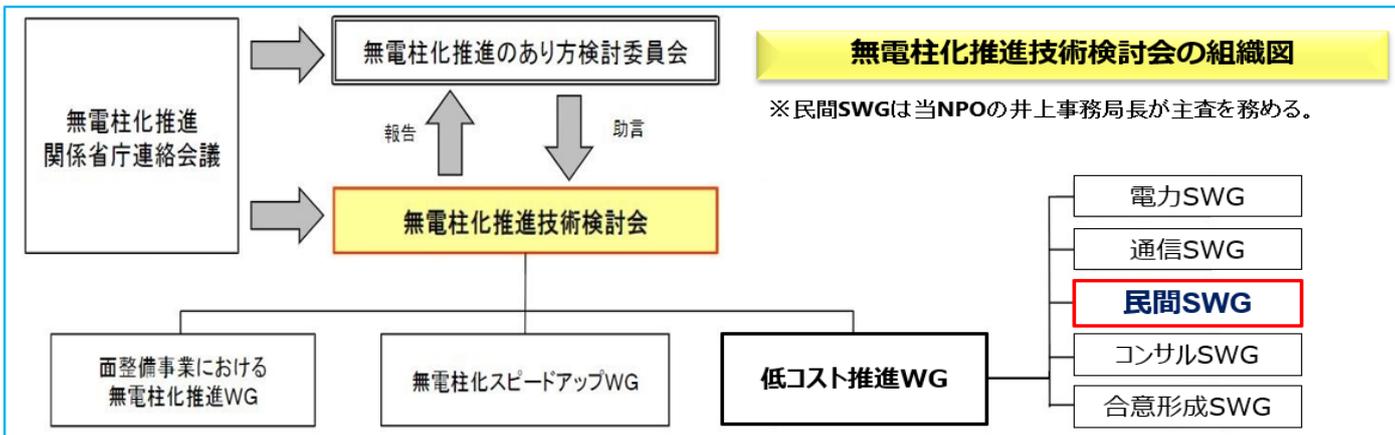
○径間距離の長延化及び配置計画図標準化の検討状況

○地上配線の検討状況

※掘削を行わず、地上に管路材を設置(管路内にケーブル配線)することで低コスト無電柱化

※屋外に暴露し、管路内部や表面の温度等を測定

○特殊部(電力II型)のコンパクト化の検討状況



## 1. 低コスト WG (通信 SWG)

- 特殊部のコンパクト化の検討状況
- ※通信Ⅱ型における地域ごとの内寸寸法のバラツキについて統一化。更なるコンパクト化を検討
- 特殊部径間距離の長延化検討状況
- 電力・通信ケーブルを同一管路で収容、共有化できるかの条件整理

## 1. 低コスト WG (民間 SWG)

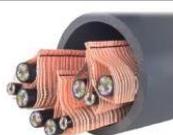
### OR5 実績と R6 予定 (民間 SWG)

項目	R5目標	R5実績	R6予定
1) 新技術・新工法の活用	①民間低コスト新規技術募集	繊維さや管など11製品・工法を新規に応募受付	新規技術募集(継続)
	①-2民間SWG内技術評価(活用)	民間SWGで評価するものの、一部製品に関しては委員から設計要件が未確定や施工上の留意点が必要などの意見が出た	NETISに登録されているもので、まだ現道での使用が無い製品については、引き続き、電線管理者の意見を聞きつつ評価を進めていく
	②民間低コスト技術導入を阻む要因・設計指針・規制、電気通信等の法律の問題点を議論	民間SWGへ電線管理者にも参加を依頼し、意見交換を実施	引き続き、電線管理者の立場での意見をもらう
	③電線管理者と低コスト導入の方法等についての基準を策定	具体的な検討にまで着手できず	各低コスト手法・製品の問題点の検証・導入に向けての検討
	—	—	テーマ別の製品の募集・開発要請

- 民間 SWG の検討状況
- ※民間技術応募受付
- ※NETIS 登録推進
- ※評価…電線管理者の評価を含めて進める

- ①民間低コスト新規技術募集結果  
 平成30年度応募技術 15件  
 平成31年度応募技術 8件  
 令和 4年度応募技術 5件  
 令和 5年度応募技術 6件 計 34件

- OR5年度民間SWG開催状況:  
 R5第1回 23.5.31: 応募技術の実用化に向けて  
 R5第2回 23.8.1 : メーカーへのヒアリング  
 R5第3回 23.9.25: 低コスト製品のNETIS取得について  
 R5第4回 23.12.8: 低コスト手法の施工要領について  
 R5第5回 24.1.30: R5年度計画の検証  
 R5第6回 24.3.5(予定): R6年度計画案について



NPO 無電柱ネットでは、「道路の無電柱化低コスト手法導入の手引き(案)-Ver.2-」で紹介されている新技術・サービスの詳細を紹介させていただきます。加えて、**低コスト製品・工法の募集も下記のリンクから受け付けています。**

[低コスト製品・工法の紹介と募集](#)

令和5年度活動計画	令和6年度活動計画
①民間低コスト技術の発掘・活用 ・新規技術募集 ・民間SWG内技術評価	①民間低コスト技術の発掘・活用(継続実施) ・新規技術募集(テーマ別製品の募集・開発要請) ・民間SWG内技術評価 ・民間低コスト技術の実証実験の実施
②民間低コスト技術導入を阻む要因・設計指針・規制、電気通信等の法律の問題点を議論	②継続検討
③電線管理者と低コスト導入の方法等についての基準を策定	③継続検討

①民間の委員が実際の現場での実体験、情報収集する中での無電柱化の問題点に対する改善提案を挙げた。

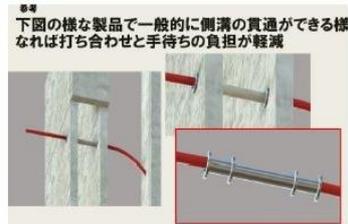
座長の屋井委員長からは、**提案だけでなく、実績・事例を出して検証をしていくこと！**

というご指摘を受けました。

次回の部会までに、**左の①③⑤の事例と検証結果をまとめて、報告できるようにする。**

## ■民間SWGからの提案

- ① 地上機器の置場、前倒しで協議  
地上機器の設置場所が決まらないことでの工事の着手遅延を解消
- ② 通信管・PV管の統一  
○通信管路: PV管φ75に統一 ○電力管路: サイズ・種類を統一
- ③ 側溝管の貫通～イレギュラーをレギュラーに～  
貫通できる条件を整理して、マニュアル化
- ④ FEP管の歩掛の問題～地域(地整)によるが統一を～  
角型FEPの歩掛は他条管と電線共同溝用の2種類が混在
- ⑤ 小型BOXを露出型から埋設型へ  
蓋を単純化可、セキュリティ、雨水の流入無などのメリット
- ⑥ 標準部材の見直し→統一拡大してはどうか  
材料の全国統一化ができれば、支給に切り替えることも



## 1. 低コスト WG

(国総研)

### ■ R5 実績と R6 予定

#### ○新技術・新工法の活用

##### ①新技術の開発

##### R5 目標

⑦ユーザーの技術開発ニーズの公表

①技術開発を行う上で明確化が必要な性能について  
意見交換

##### R5 実績

⑦道路局 HP に技術開発ニーズを公表

(地上機が無い構造が可能となる技術)

(地下埋設物の正確な位置・深さを確認できる技術)

①管路材メーカーとの意見交換を実施

##### R6 予定

要求性能の明確化 (R7) に向け、管路材に求められる性能及び性能を確認するための試験方法を検討。

##### ②新技術の活用

##### R5 目標

現場への情報提供方策の検討

##### R5 実績

「無電柱化に関する新技術集」を作成

##### R6 予定

必要に応じて情報を更新

※現場に無電柱化に関する新技術の情報を提供するために「無電柱化に関する新技術集」を作成。本技術修は、「低コスト手引き(案)」の改訂版や国総研 HP に掲載予定。

## 1. 低コスト WG

(道路局)

### ■ R5 実績と R6 予定

#### ○管路

##### ①管路構造

##### ②小型ボックス

##### ③角型多条管等

##### R5 目標

①浅層化に伴う管路防護の設置基準や構造基準の策定

②小型ボックス構造の標準化、蓋構造の検討

③技術比較表の作成、要求性能の明確化

##### R5 実績

①管路防護の選定フロー図と標準的な管路防護構造図を作成した

②標準構造図(本体、蓋)を作成した

③技術比較表を公表した、メーカーヒヤリングを行い、試験項目を整理した

##### R6 予定

①②③とも手引きに掲載

#### ○特殊部

##### ①コンパクト化

##### ②共有化

##### ③配置計画

##### R5 目標

①通信 SWG・電力 SWG による検討

② I 型採用のルール化

③概略設計段階での検討内容の明確化

##### R5 実績

①通信 SWG・電力 SWG による検討

②コスト比較を行い、I 型集約が経済的に有利であることを確認

③概略設計段階で必要な情報を整理し、電線管理者へ報告した。

## R6 予定

- ①歩道に設置出来る特殊部の検討(R7)に向け、道路構造の観点での最適な外側寸法を検討する
- ②手引きに記載
- ③電力SWGの成果を手引きに掲載

## 2. スピードアップ WG

### ■ R5 実績と R6 予定

#### 施工方法の工夫として

##### ①昼間施工の拡大

##### ②工事のスピードアップ

があげられ、

①夜間工事を避ける施工方法選定のフロー作成、常設作業帯の効果を検証

②トレンチャーによるスピードアップ効果の検証

を行い、

今後も、事例の収集、効果検証を進めていく

#### 地中探査として

##### ①探査の実施場所

##### ②埋設物の把握方法

##### ③情報の活用方法

があげられ、

①設計に必要な精度を検討

①②探査精度に影響を与える項目を検討し、

①地中探査実施個所の考え方を整理

②ヒアリングにより、探査方式と探査精度を整理

③取得した情報の活用方法を検討した。

## 3. 面整備 WG (国交省都市局)

市街地開発事業における無電柱化推進のためのガイドラインの改訂(素案)とコスト縮減に向けた取り組みについて説明された。

加えて、市街地開発事業における無電柱化推進のためのガイドラインの改訂(素案)の際に**名称の整理(案)**も検討中。

○7期推進計画では無電柱化の事業手法と構造が混同された状態で分類されており、複数者が入線する構造を「電線共同溝」と呼称していた。(※構造により事業手法が限定されているかのような印象も与えていた)

○8期推進計画、合意形成ガイドラインでは、構造と事業手法を分離して分類されたが、それぞれの関係性が不明確

○構造と事業手法が分離した分類をベースに付属情報(費用負担、財産の帰属、道路占用など)を付

与した一覧表を整理することにより、無電柱化には様々な手法があり、状況に応じた選択が可能であることを周知したい

○構造名称を一部変更(わかりやすさを優先した構造名称に変更)

## 4. NPO 事務局報告

### 🏠 NPO 社員総会・総会セミナーのお知らせ

日時：6月24日(月)

15:00~16:30 社員総会・各支部方針発表

17:00~18:30 総会セミナー

※19:00前から近隣の飲食店で交流会を予定しています。

場所：大阪市立総合生涯学習センター5階 第1研修室(大阪駅前第2ビル5階)

### 🏠 第12回無電柱化推進展のお知らせ

日時：7月24日(水)~7月26日(金)

場所：東京ビッグサイト 東展示棟

今回は、NPOのブースだけでなく、会員企業様と協力した協賛企業ブースも設けて、無電柱化低コスト製品・工法の宣伝・提案ができる企画を考えています。新たに発行する小冊子の配布、ブース壁面を使った施工事例紹介&製品・工法の紹介のパネル展示を予定していますので、自社製品・工法のアピールに是非ご協賛にご協力をお願い致します。



昨年の無電柱化推進展(展示状況)



ユーチューブ動画(限定配信)  
のご案内 ~当日の発表から~

耐震に対する現行管路規格の疑問点(佐伯理事)

[https://youtu.be/Q\\_XdsCclIiI0](https://youtu.be/Q_XdsCclIiI0)

繊維さや管について(野原理事)

<https://youtu.be/Xw4FaHdfKeo>

繊維さや管の海外事例紹介(ミリケン・ジャパン岩撫様)

<https://youtu.be/1-J-mp98K6A>

# 2024.2.15 東京活動委員会 海外事例報告の学生レポート 大竹菜々香



2024年2月15日、一般財団法人日本みち研究所分室にて、東京活動委員会が開催されました。その中で講演された東京支部の前川理事の海外無電柱化事例紹介ーアイスランドーの内容を大竹が紹介させていただきます。青文字は追記部分です。

## 1. 海外事例ーアイスランドの概要

- ・首都：レイキャビク (Reykjavík)

首都 レイキャビク



- ・人口：約36万人(外国人は65,000人で、年々国際移民数が増加傾向にある)。この数値に近い日本の主要都市・区は、神奈川県港北区…354,558人。愛知県一宮市…374,479人、群馬県高崎市…368,945人、愛知県豊橋市…365,346人、長野県長野市…364,712人、埼玉県川越市…354,205人、奈良県奈良市…349,774人など。

- ・国土面積：約10.3万km<sup>2</sup>(北海道の面積の約1.2倍)



- ・主要産業：漁業、観光業
- ・観光客数：年間220万人(観光産業は年々発展しており毎年多くの観光客が訪れるため、年間の観光客数が人口よりもはるかに多い)。

## 2. アイスランドの気候と自然

- ・「氷と炎の国」と呼ばれるアイスランド  
国土の約11%は氷河で覆われ、ヨーロッパ最大の氷河が存在する。



- ・30もの活火山が存在し北アメリカプレートとユーラシアプレートの境界に位置している。広がる境界(発散境界)によりできた2つのプレートの隙間からマントルの上昇が起こるため、活火山が多い。



- ・レイキャビクの北緯：64度(北海道稚内市…北緯45度)  
→高緯度に位置するため寒さが厳しい国であるように思われるが、メキシコからの暖流(北大西洋海流)により冬の間もそれほど寒くなく積雪も少ない。
- ・森林面積：非常に小さく「荒れ地」のような景色が広がる。  
→9世紀末は国全体に森林が広がる緑豊かな国であったと言われているが、時代が進むにつれ人の手により森林破壊が進み、現在のアイスランドは欧州で最も森林の少ない国であると言われている。

- ・「海嶺」が陸上に表れている唯一の国  
北アメリカプレートとユーラシアプレートの境界である大西洋中央海嶺が島内を南北に分断している。境界の裂け目は「ギャウ」と呼ばれ、北米プレートとユーラシアプレートの二つが生まれる場所となっている。



## 3. アイスランドの電力事情

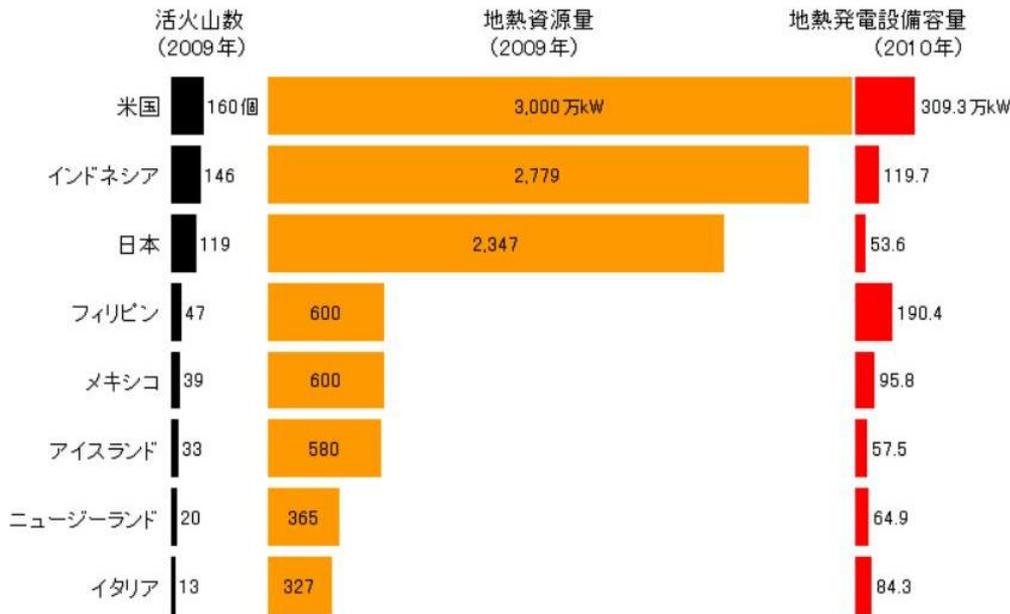
- ・再生可能エネルギー100%  
水力発電7割、地熱発電3割
- ・一般家庭暖房の約9割は地熱エネルギー源を利用している。  
→活火山が多く、地熱活動が非常に盛んなため。
- ・送配電の電圧  
：高圧=220, 132kV (日本は500, 275, 154 kV)  
：中圧=20, 10kV (日本は66, 6.6 kV)
- ・宅送電圧：230V (ヨーロッパ均一)

日本はアイスランドを上回る世界第3位の地熱資源国とされるが、総発電量に占める地熱発電の割合はわずか約0.3%に留まる。

この理由として、地熱資源が国立公園や温泉地付近に集中しており、発電所の開発に制約がかかることや、開発から運転開始まで約10年以上の年月と、膨大な費用を要することが挙げられる。地熱発電は環境に対し大きなメリットを持つが、課題も多くある。しかし、無電柱化と同様に実現する未来は決して遠くないと思う。今後さらなる国の積極的な支援が必要である。

風力発電や太陽光発電といった他の自然エネルギーによる発電方法では、発電の時間が限られてしまったり、天候や季節によって発電量が上下したりといったデメリットがある。

## 主要国の地熱発電の活火山数・地熱資源量・地熱発電設備容量とそのシェア



世界の地熱発電設備容量のシェア



日本地熱協会資料より

(注) 活火山数と地熱資源量は産業技術総合研究所提供データ、地熱発電設備容量は火力原子力発電技術協会「地熱発電の現状と動向2010・2011年」による  
 (資料) 東京新聞大図解「地熱発電」2012年5月13日

一方、地熱発電は、1,000～3,000mもの地下に掘削した深い井戸から昼夜を問わず天然の蒸気を噴出させており、それによって発電も連続して行われ、つねに一定量の発電が可能である。また、優れた安定性だけでなく、設備の高い利用率によるコスパの良さも特徴となっている。

### ・無電柱化工事の様子

日本と同じ地震大国のアイスランドだが、無電柱化工事の様子は日本と比べてかなり簡易的に見える。

無電柱化の事業主体に関しては、国内では道路管理者が行うが、海外のほとんどの都市では管路・特殊部の整備や管理を電力・通信事業者が行う。加えて日本は2016年から架空線・電柱等の法的規制において、国直轄管理の緊急輸送道路の電柱の新たな占用を禁止している。



### ・街並みの様子

都市部や郊外は無電柱化が進み、電柱・架空電線がない。



### ・ケーブルが直置きされている様子

人や車の往来が少ない場所(郊外部や山間部など)では、ケーブルの直置きも一つの手法である。電線類を地中化せずとも、直置きすることで大幅に低コスト化できる。



# インターン企画 無電柱化住宅地アンケート調査 2024 の報告 武田翔真



私たちは 2024 年 2 月から電線の無い街づくり支援ネットワークのもとでインターンを行っている大学生です。今回、私たちが実施した無電柱化住宅地アンケート調査についてご報告をさせていただきます。

日本では、多くの電柱が設置され、年々その数は増え続けています。他国が無電柱化を進める中、日本も無電柱化政策を進めています。

現在、日本は緊急輸送道路を中心とした防災面での無電柱化に主眼をおき、国道を中心に道路での電柱の削減を進めています。

一方で、市街地開発地や民間住宅地では電柱の増加が抑制されず、増加の一途をたどっています。例えば、令和 3 年度には新設の電柱が約 16.7 万本もあり、これに対し撤去された電柱は約 13.4 万本でしたが、それでも約 3.3 万本の電柱が増加しています。

このような状況を踏まえ、私たちは無電柱化住宅地にお住まいの方に対しアンケート調査を行い、無電柱化の利点や進まない要因を検証することに取り組みました。以前、2021 年 9 月上旬に行われた無電柱化住宅地アンケート調査をもとに、私たちが新しくアンケートを作りかえ、当時叶わなかったインターフォン越しでのアンケート依頼を試みました。実施期間は 2 月 16 日～3 月 31 日で、訪問・投函戸数 882 件に対し、66 件の回答が集まりました。たくさんのご協力ありがとうございました。

[🏠【インターン企画】無電柱化住宅にお住まいの方にアンケート調査を実施（2021 年 9 月の記事より）](#)

## 新設電柱の調査結果概要 [令和3年4月～12月] 資源エネルギー庁資料より

### 電柱（電力柱+通信柱）の新設及び撤去状況

- 4月～12月の9ヶ月間では、電力柱は約4万本の増加、通信柱（NTT）は約0.7万本の減少
- 電力柱と通信柱（NTT）と電柱を併せて、電柱は約3.3万本増加（年間増加本数は概ね4.5万本見込み）

[4月～12月]			
	新設	撤去	増減
合計	約16.7万本	約13.4万本	約3.3万本
うち電力柱	約10.6万本	約6.6万本	約4.0万本
うち通信柱*	約6.1万本	約6.8万本	▲約0.7万本

年間増加本数  
概ね4.5万本  
見込み  
（各回生損耗  
平均値と計算）

※通信柱はNTTを対象

### 電力柱の新設場所と新設ケース

- 電力柱の新設（約10.6万本）のうち、供給申込や再エネ発電設備への接続に係るものが約5.2万本
- このうち、約8割が個別の家屋新築等に伴う供給申込によるもの

#### 【電力柱の新設ケース】

要因	増減
供給申込	約4.2万本（80%）
うち市街地開発事業等に係るもの	約0.2万本（5%）
うち個別の家屋新築等に伴うもの（上記以外）	約3.9万本（75%）
再エネ発電設備への電線の接続に係るもの	約1.0万本（20%）
合計	約5.2万本（100%）

※四捨五入の関係で各計数の和が一致しない

- 電力柱の新設のうち、民地に約8割、官地に約2割が設置されている

#### 【電力柱の新設場所】

場所	増減
民地	約3.9万本（75%）
官地	約1.3万本（25%）
うち道路区域	約0.9万本（17%）
うち道路区域以外（公園、河川区域等）	約0.4万本（8%）
合計	約5.2万本（100%）

## アンケートの主旨・アンケートの方法

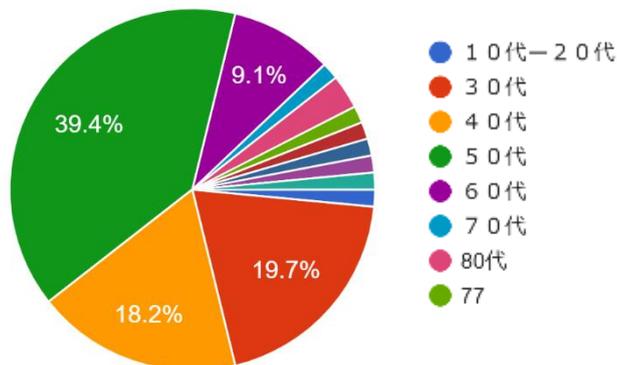
無電柱化住宅地アンケート調査は無電柱化住宅地にお住まいの方々を対象としたもので、実際に住んでいる方々にしかわからない「無電柱化の魅力」や「電柱・電線への意識」があるのではないかと考え、調査をさせて頂きまし

た。調査方法としては、Google フォームでアンケートを作成し、その QR コードを載せたチラシを投函して回りました。投函する際にはインターフォンを押し、応答して下さった方には調査の意図を簡単に説明しました。以下がアンケート項目とその結果です。

### アンケートの項目とその結果

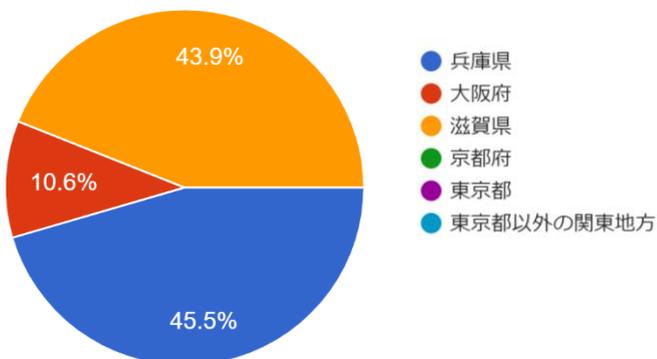
以下がアンケート項目とその結果です。

#### 1. 回答者様のご年齢を入力してください。



コメント:回答者様の背景を知るための設問でした。想定していたよりも年齢層の高い方々から多くの回答をいただきました。無電柱化住宅地に住むまでの経緯とも因果関係はありそうですが、それと同時に、比較的若い年齢層の方の関心度が低いのかなとも感じました。

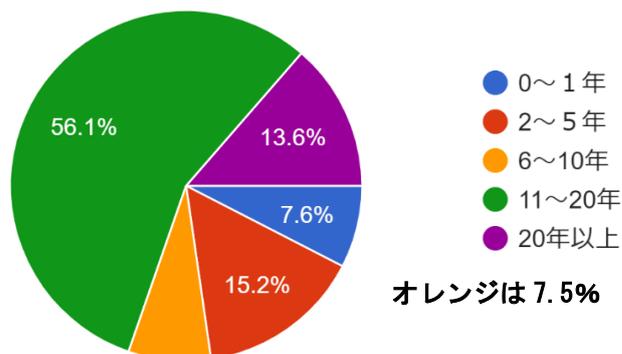
#### 2. お住まいの地域を教えてください。



コメント:地域(大阪・兵庫・滋賀)によって、無電柱化住宅地に対する考え方や関心度の違いを知るための設問でした。地域によって無電柱化住宅地の建設までの背景や住宅地周りの環境の違いが見えて面白かったです。

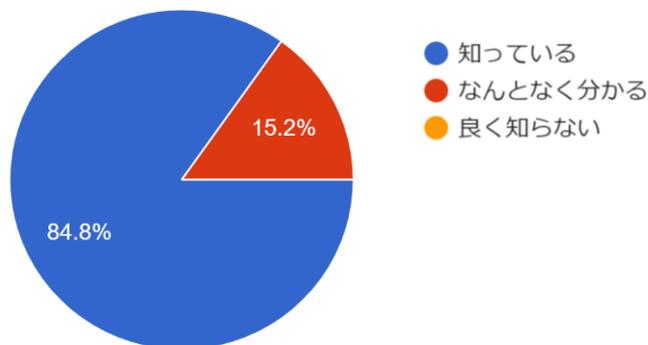


#### 3. 居住年数を選択してください。



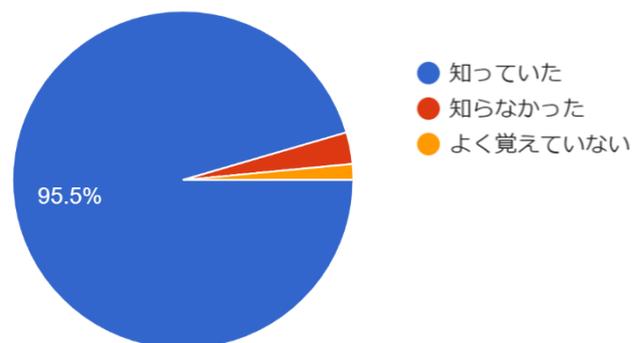
コメント:回答者様の背景を知るための設問でした。想定していたよりも全体的な住居年数が高かったです。長い期間住み続けたいと思える要素が無電柱化住宅地にあると改めて感じました。

#### 4. 無電柱化とは何か知っていますか？



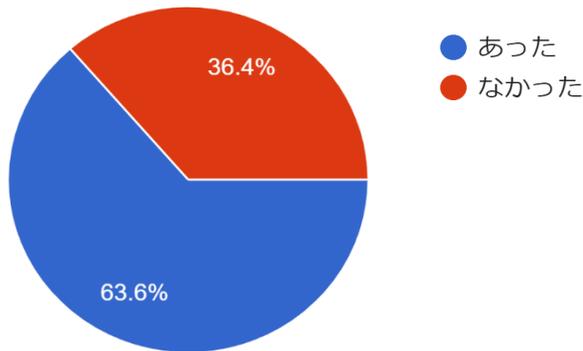
コメント:無電柱化についての関心度を知るための設問でした。「良く知らない」と回答した人がいないのは驚きでした。アンケートに回答して下さる方の関心度がある程度高いものだった、ということもあると思いますが、無電柱化住宅地に住む人の関心度は非常に高いことがわかりました。

#### 5. 現在お住まいの住宅地周辺が無電柱化されていることは引っ越しをする際にご存じでしたか？



コメント:引っ越しする際に無電柱化というのが少しでも影響したのかを知るための設問でした。ほぼ全ての方が知っていたと回答していただきました。引っ越しを決める上で無電柱化というのはひとつの要素になっていたのでは感じました。

6. 無電柱化されたところに住みたいという願望はありましたか？



コメント: 引っ越しする際に無電柱化というのが決め手となったのかを知るための設問でした。想定よりも願望を持っていた方は少なかったです。しかし、半分以上の方々は願望があったと回答し、住宅地を見学に来た際に良いなと思ったと回答して下さった方もいたため、それだけ無電柱化に魅力があったのだと感じました。

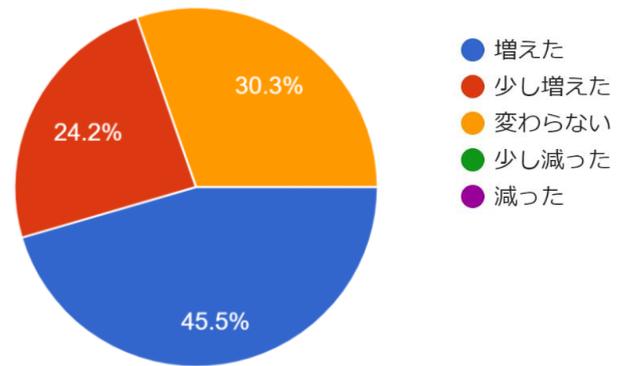
7. 実際に住んでみて期待通りだったものや、逆に期待通りでなかったものがあれば記入してください。以下に回答をまとめます。

- a. 景観の良さに関する期待通りのコメント:
- 景観がよく、街並みの美しさが満足できる。
  - 無電柱化により景観が良くなり、見た目がすっきりしている。
- b. 景観に関する期待通りでなかったコメント:
- 電柱や地下の設備に関連する課題があり、景観の良さとは別に問題がある。
  - 景観が良い一方で、インターネットやテレビの受信に関する問題がある。
- c. 停電や災害時の対応に関するコメント:
- 無電柱化により停電が少ないと感じるが、一部地域での停電復旧の遅れがある。
  - 災害時の対応について、無電柱化が安心感をもたらす一方で、地域差がある。
- d. その他のコメント:
- 空が広く、景観が爽快であるが、夜間の防犯上の心配がある。
  - 車の運転や歩行において、無電柱化が安全性を向上させている。
  - 景観の良さに加え、自治会費やインフラ制約などの問題が存在する。

コメント: 実際に住宅地に住む当事者のリアルな意見を知るための設問でした。日頃から景観面や安全面の良さを感じているという意見が多い一方で、インターネットやテレビの受信に関して制限があるという不満の回答が目立ちました。

※アンケート調査でいただいたご意見の詳細は、NPOのHPで紹介させていただいています。[こちらから](#)

8. 無電柱化住宅に住んでから無電柱化されていない場所を訪れる時に景観や防災面で電柱や電線について意識する機会は増えましたか？

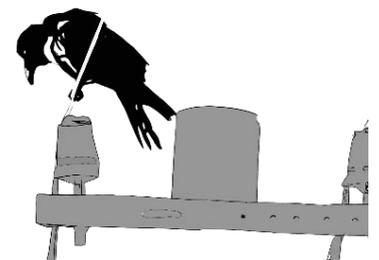


コメント: 無電柱化が生活の身近にある方々の意識の変化を知るための設問でした。意識するようになったという意見は決して少なくないですが、想定よりも少なかったです。無電柱化されていない地域が圧倒的に多いため、そういった場所を訪れても大きな意識の変化はないのではないかと感じた。

9. 無電柱化されていない場所で、どういったときに電柱や電線に対して考えることが増えましたか？あれば教えてください。

以下に回答をまとめます。

- a. 景観や安全性への影響に対する考え方の変化:
- 電柱や電線の有無が景観や安全性に影響することをより意識するようになった。
  - 災害時の対応や安全性を考えるとときに、電柱や電線の存在が重要な要素となることに気づいた。
  - 狭い通りや通行の際に、電柱が邪魔になることをより強く感じるようになった。
- b. 無電柱化への期待や希望:
- 無電柱化された場所を見て、景観の良さや安全性の向上を期待するようになった。
  - 他の地域でも無電柱化が進めば良いと願うようになった。
  - 子どもの安全や地震などの災害時に備えて、無電柱化の必要性を感じるようになった。
- c. 電柱や電線に対する懸念や不満:
- 電柱や電線が景観を損なうことに対する不満や残念さが増した。



- 電柱や電線の老朽化や地震などの災害時の危険性に対する懸念が強まった。
- 電柱や電線による鳥のフン害や、景観の乱れを不快に感じるようになった。

コメント:実際に住宅地に住む当事者のリアルな意見を知るための設問でした。設問7と同じように、景観面や安全面に対して考えることが増えたという意見が多かったです。また、無電柱化される場所に対しての期待や無電柱化の必要性を感じるようになった、という声が無電柱化を促進していく上で貴重な意見だと感じました。※アンケート調査でいただいたご意見の詳細は、NPOのHPで紹介させていただいています。[こちらから](#)

### 10. 無電柱化により、景観面での感じ方は変わりましたか？

- (↑) 変った
- |   |           |                           |
|---|-----------|---------------------------|
| 1 | 48(72.7%) | } <b>90.9% 圧倒的に割合が高い!</b> |
| 2 | 12(18.2%) |                           |
| 3 | 4(6.1%)   |                           |
| 4 | 2(3.0%)   |                           |
- (↓) 変わっていない

コメント:景観面だけに着目した際の変化を知るための設問でした。景観面での感じ方の変化はとても大きいことが改めてわかった。

### 11. 無電柱化により、防災面での感じ方は変わりましたか？

- (↑) 変った
- |   |           |                       |
|---|-----------|-----------------------|
| 1 | 27(40.9%) | } <b>69.7% 割合が高い!</b> |
| 2 | 19(28.8%) |                       |
| 3 | 15(22.0%) |                       |
| 4 | 5(7.6%)   |                       |
- (↓) 変わっていない

コメント:防災面だけに着目した際の変化を知るための設問でした。災害が頻繁に起こるわけではないため、景観面に対しては劣るが、防災面に関して感じ方の変化はあることがわかった。

### 12. 防災面や景観面で感じ方が変わった具体的なところがあれば教えてください。

以下に回答をまとめます。

#### a. 防災面での感想:

- 電柱や電線の無い環境では地震や台風などの自然災害時に安全であると感じる。
- 災害時に電柱や電線が倒れることによる二次災害を心配せずに済む。

#### b. 景観面での感想:

- 電柱や電線がない街並みはスッキリとして美しいと感じる。
- 窓からの景色が良くなり、生活環境の満足度が高まる。

#### c. 無電柱化に対する安心感や期待:

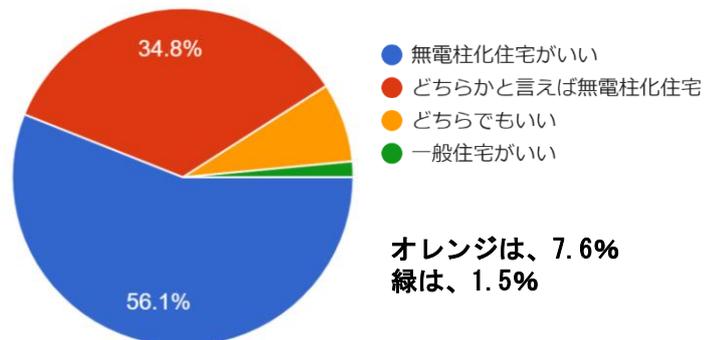
- 電柱や電線のない環境に住むことで安心感があり、子どもの安全を考える上でも良いと感じる。
- 無電柱化を進めるべきだと考える。

#### d. 災害時の復旧や対応に関する不安や懸念:

- 無電柱化地域での災害時の復旧作業や対応には時間がかかる可能性があり、その点に不安を感じる。
- 液状化した場合や地震などの災害時に復旧が難しくなるのではないかと不安がある。

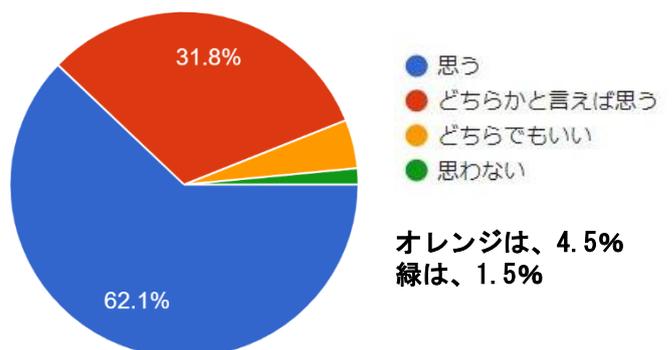
コメント:実際に住宅地に住む当事者のリアルな意見を知るための設問でした。実際に台風や大雨で防災面の感じ方が変わったという意見があった一方で、復旧に手間や時間がかかるのではないかと不安も目立った。

### 13. 次に引越すなら無電柱化住宅と一般住宅、どちらを選びますか？



コメント:率直に住宅地に住んだ人がどちらを選ぶのか知るための設問でした。多くの方が無電柱化住宅に住みたいという意見の一方で、一般住宅が良いという意見もありました。その理由としては、災害時の復旧速度に不安があるようでした。無電柱化を広めるためには、そういった面の不安や不満の解消も必要だと感じました。

### 14. 無電柱化が進んで欲しいと思いますか？



コメント:率直に住宅地に住んだ人がどちらを選ぶのか知るための設問でした。ほとんど前問の回答内容に等しかったです。無電柱化が進んでほしいと思ってもらうためには、無電柱化住宅地の魅力に気づいてもらうのもひとつの必要な要素のように感じました。

## 15. 逆に電柱や電線の魅力を感じることをあれば教えてください。

以下に回答をまとめます。

### a. 復旧や保全に関するメリット:

- 電柱や電線の従来の設置は、災害時の復旧が早く、修理や保全のための費用が低いと考えられる。
- 不具合が発生した場合、目視で原因箇所を特定しやすい。

### b. 地域の特色や風景としての魅力:

- 特定の地域や下町などでは、電柱や電線が街の風景やアクセントとなっており、ノスタルジックな魅力があると感じる人もいます。
- 電線だらけの風景に魅力を感じる人もいます。

### c. その他の魅力や利点:

- 電柱や電線があることで、人の手が入っている感じがおり、地域の温かみを感じることができる。
- 断線やトラブル発生時に迅速に対応できると考えられる。
- レトロ感を求める人にとっては、電柱や電線が街の風景に加わることで好ましいと感じる場合がある。
- 設置費用が比較的安く、点検やメンテナンスが容易であるという利点がある。

コメント:無電柱化が生活の身近にある方々が電柱や電線にどんな魅力を感じているのか知るための設問でした。個人的には、一番面白い設問でした。復旧の速さは良く言われるメリットではありましたが、電柱そのものの景観を良いと感じる人も一定数いることがわかりました。日本にしかない雰囲気だからこそその魅力もあり、アニメ大国の日本だからこそ電柱や電線がある街の風景というものに魅力を感じる人もいないのではないかと感じました。※アンケート調査でいただいたご意見の詳細は、NPOのHPで紹介させていただいています。[こちらから](#)



## アンケート調査に参加したインターン生の感想

アンケートにご回答いただいた多くの皆様、ご協力ありがとうございました。

無電柱化については景観面や防災面でのメリットを感じている方々が多くいらっしゃいました。一方で、加入できないネットワークがあったり、普及や修理に時間がかかったりするのではないかという意見が多かったです。

また、アンケート調査の枠を超えて調査に協力してくださった方もたくさんいらっしゃいました。そういった方々からも無電柱化住宅地に住むまでの背景や住んでからのリアルな感想を聞くことができました。

無電柱化住宅地アンケート調査の活動を通して、私たちインターン生が感じたことを振り返りましたので、掲載させていただきます。

### ●大阪経済大学 伊地知 勇太

住宅地にアンケート調査をお願いする活動を通して、個人宅に行ってお願ひして怒られたり、不審感を住人の方に持たれたりしないか不安でした。

しかし、声をかけて見ると、思っていたよりしっかりお話を聞いて下さる方もいたりして、調査を何とか進められました。また、アンケート調査を通してなかなか回答率が上がらない事や受け取って貰いにくい所に苦労しましたが、腰を低くして丁寧な言い方を心掛けたり、話すマニュアルを自分の中で整えたりしました。

良かった点は、調査に何回も行くことで時間帯によって昼間の方が、人は少ないが受け取って貰いやすかったり、逆に夕方になると人は多いが、「忙しいです」と断られてしまうなど、雰囲気が変わったりする事を学べました。また、アンケート結果を見ていて考えた事は、少なからず無電柱化住宅地に住まれて電柱について考える事が増えたと言う人が多い事や景観面・防災面を考えられている方が多いと言う事です。ここから、私は無電柱化の防災効果におけるメリット・デメリットや景観面の発信を強化していく事が今後の広報でも必要なと感じました。

### ●同志社大学 菅 剛宏

このNPOに入り、まずは実際に無電柱化住宅に住んでいる人に無電柱化の良さ、感じることを聞きに行こう!と考え、住民の皆さんにアンケートを取りに行くことを決めました。アンケート方法は「アンケートフォームに跳ぶことができる用紙をポストに投函するだけ」なのか、それとも「一軒一軒インターフォンを押してアンケートに答えてもらうように促してから投函する」のかどちらを取るかを迷いましたが、実際に口で自分たちが何者なのかを名乗ってから投函したほうが、住民の皆さんにとって印象が強が残ると考え後者を選択しました。

事務所でチラシを 100 枚刷り、意気揚々といざ無電柱化住宅が立ち並ぶ場所へ。「早く無電柱化住宅に住んで人に直接話を聞きたい！」という気持ちでした。しかし、目的地である無電柱化住宅に着いたとたん、全く違う思いが芽生えました。それは「知らない人の家のインターフォンを押す怖さ」でした。

住宅が「攻め込むのが難しい要塞」のように思えるほどで、「どんな反応をされるのだろうか」正直インターフォンを押すことを躊躇してしまいました。しかし勇気を振り絞って声を掛けました。暖かい反応と冷たい反応のどちらが多かったかと言われれば、冷たい対応をされるときの方が多かったです。しかし何軒かに一度、暖かく自分たちの声を聞いてくれる人がいた事がとても心の救いになりました。

アンケート結果を見ると、大多数の人が無電柱化に対してよい印象を持っていたことが分かりました。そのことが後の無電柱化を推し進める活動をする中で大きなモチベーションになりました。

## ●立命館大学 武田 翔真

無電柱化住宅地アンケート調査 2024 を通して、たくさんのことを考え、実行してきました。以前に無電柱化住宅にお住まいの方々にアンケートを実施したことがあると聞きましたが、そのときとは全く違う調査にできるように意識しました。そのため、企画の意義や目的などを考え直し、そのために必要な質問や調査の形式を考案しました。調査を開始してからも改善点を洗い出し、調査の方法を見直してきました。

アンケート調査を実施する上で、私が個人的に意識したことは調査方法の検証でした。

休日と平日の同じ時間帯に同じ枚数だけのチラシを配り、直接・インターフォン・留守の3つに分けてデータを取りました。休日の方が多くの方が話を聞いてくれる傾向がありました。平日は留守な家庭が多かったのですが、時間をおいて回答して下さる方もたくさんいらっしゃいました。特に休日の訪問した方々は、私たちの活動に真摯に向き合ってください、数十分も話をしてくださった方もいまし



インターン生の朝礼風景

た。そこで聞いた話も非常に興味深く、その地域についてももっと調べてみたいと感じました。

一方で、何軒も回ったなかで冷たい態度を取られてしまうこともありました。そういうこともあり、見知らぬ相手の家のインターフォンを押すにはかなり勇気が必要でしたが、これも調査方法のデータを取るためだと言い聞かせることで、不安や恐怖が自然となくなり調査を進めることができました。

調査を進める中で、無電柱化住宅地にお住まいの方々の意識や考えを知るうちに自分自身の無電柱化に対する関心も高まり、これをもっと多くの人に周知したいなど感じるようになりました。今回は大阪府・兵庫県・滋賀県の3つの府県を対象としていました。私が調査を担当した地域は地元である滋賀県でしたが、滋賀県は他の都道府県に比べても無電柱化住宅の意識が高いとは言えないというのを感じていました。そういった背景のなかで、数少ない無電柱化住宅地にお住まいの方々から聞ける話は貴重なものでしたし、無電柱化をもっと広めていきたいと強く思うきっかけにもなりました。今回の調査を今後の活動にも活かしていきたいと感じています。

以上がインターン生による振り返りとなります。

基本的にはそれぞれ個別で無電柱化住宅地に調査に赴きましたが、互いに調査の現場や課題などを共有し合い、より良い調査とするために頑張ってきました。

各々が調査を進める中で、無電柱化の必要性に気づき、無電柱化を広めていきたいという気持ちが強くなっていきました。そして、このように調査した内容を共有できる場があることに感謝しております。今後はこの調査を活かし、NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワークで取り組ませてもらっている個人の企画をやり遂げたいと感じています。

インターン生を代表して武田翔真が今回の調査報告をまとめさせていただきました。

いただいた回答の詳細は当NPOのHPで紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

